



No. 2983

第3301回例会

平成24年6月6日

DISTRICT 2500

OBIHIRO

ROTARY CLUB

方針

ロータリーを学び 共に楽しもう

会長 加藤 維利

2011-12年度
国際ロータリーのテーマ

Reach Within to Embrace Humanity

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

■プログラム

「自死遺族として思うこと」

社会奉仕委員会

工藤 正子様



ただ今、紹介いただきました工藤正子様です。このように沢山の皆様の前でお話するのは初めてです。最後まできちんとお話しすることが出来るか不安ですが、自死遺族として体験したこと、日々思うこと、感じてきたことを素直にお話しできたらと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

自殺者がどんなに多いか…という点については、テレビ・新聞などで報道されている通りですが、あまり理解されていないのが現状だと思います。

例えば、毎年3万人前後の市や町が1つずつ1つずつこの日本から消えていく状況と同じです。そして1人の自殺者に対して、残された家族を5人と考えると15万人になります。帯広より少し小さな市が、1年間で全員自死遺族になるということになります。こう考えると、あらためて大変なことだと思いました。

そして、亡くなった方の婚約者であったり・大切な親友・クラスの教え子・職場の同僚や部下・親しくしていたご近所さん・家族同様にお付き合いされていた方たちは、この15万人にはカウントされています。実際にはもっとたくさんの方が悲しんでいるということです。この現状は多少の変動はありますが、平成10年からここ13年間ずっと続いています。

我が家のことをお話ししたいと思います。

ここ帯広には、主人の転勤でやって来ました。主人の仕事は地方公務員で8箇所目の勤務地でした。家族みんながこの帯広を好きになり、主人は「定年後はここに住みたいなあ…」といつも言っていました。

ある朝、いつも通りに主人は出勤しました。1時間位経ってからだっと思ったと思います。「職場に来ていませんが、今日はお休みですか?」という電話が勤務先から入りました。私は一瞬、交通事故だと思いました。

しかし、それから2日後…主人は変わり果てた姿で発見されました。まさか?なぜ?正直、怒りもありました。主人の両親から何を聞かれても、答えることが出来ませんでした。とても辛かったです。

「急性心不全」…それがどんな病気なのかも分からないまま、主人の病名になり、葬儀だけが進んでいきました。仕事のことは家では語らず、頑固で真面目な性格の夫でした。平成10年の4月、亡くなった時、主人は48歳でした。詳しい原因は、今も分からないままです。

そして主人が亡くなってから6年後、札幌で就職していた長女から夜電話がありました。

「お母さん、私、死にたい…」長女はうつ病で苦しんでいました。主人が亡くなった時、長女は高校2年生17歳でした。多感な時期をたくさん悲しみと、不安を抱えながら誰にも話すことが出来ずに苦しんでいました。闘病中に娘が何度も言っていた言葉があります。「親戚から、自殺して言ったら絶対ダメだよと言われた」

「私はお父さんに捨てられたのだから?」

「泣いたりしないで、しっかりお母さんを助けないとダメだよね」

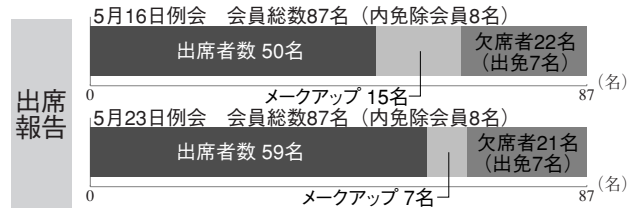
「4年制のお金のいっぱいかかる大学に進学したいと言ったから、お父さんを苦しめた。だから、お父さんを殺したのは私だ」

「いつかお母さんも死んでしまうのではないかと…」

これらの言葉は、父親を亡くしてから6年経って、ようやく言えた長女の心の叫びでした。親を自死で亡くした子供たちの多くは、心に深いキズを負っています。

第一発見者が子供であることも、決して珍しいことではありません。外見上は、元気そうに振舞っていたり、学校にも行きますが受けている衝撃・痛みは見過ごされてしまいがちです。悲しみを口に出すこともありません。

周囲の大人たちは、私を含め、世間体を気にし、やらなければいけない手続きに追われ、生活の基盤を立て直しに一杯一杯になります。



私は、長女に何の気遣いのなかったことに、とても後悔しました。長女の言葉に対して、「そんなことはないよ」と否定すればするほど、彼女の自責の念は強くなっていきました。うつ病の人に対する接し方の知識がまったくなかったからです。退職し、病院に通い、カウンセリングを受け、ゆっくり休養しようと退職しましたが、病状はなかなかよくなりませんでした。

平成19年の3月、お雛祭りの日に、娘は自ら命を絶ちました。「お母さん、ごめんね。」という手紙がありました。うつ病と戦って4年目、26歳でした。

「良い妻でなかったから夫を死なせてしまった」

「強いお母さんでなかったから、また…娘を死なせてしまった」

「私は家族を2人殺した」

「どうしたら、夫や長女は死なずにすんだのだろうか?」

「こんな人間が生きていていいのか」

今現在もこうした感情と毎日、戦っています。

私は今、色々な悩みを抱えている方のお話を聴くお仕事をさせて頂いています。

* リストラで仕事を失った方

* 家族の中にひきこもりの子供を持つお母さん

* セクハラ・パワハラで悩む従業員

* コミュニケーションをとるのが苦手な若者

* 経営不振な営業主

* 精神疾患で苦しんでいる方

* DVからどうしても逃げられないでいる方

* 過労

* いじめ

* 家族の不和

* ギャンブル・アルコール・摂食障害などの依存症の当事者とその家族

NPO法人ライフリングの調査では、自殺した人の悩み事は決して一つではない。幾つかの要因が、1人当たり平均4つ~5つが重なり合うことによって、自殺の危機要因が高まるというデータを発表しています。

特別な家庭・特別な人が自死するのではなく、生活していく中でどこにでもある普通の家庭の悩みが同時期に起こり、家族間では対処出来ない・問題解決出来ない状態が長期化した時、人は誰でも、自殺の危険が高まる可能性があるかと解ってきました。

自殺者は意志が弱かった訳でもなく、家族のことを見捨てた訳でもありません。たくさん問題に対して、もう何もなす術がないというぐるぐる思考に陥り、激しく動揺した末に行った行為と考えられます。「死にたい」というより「生きているのがしんどかった」という気持ちが強かったのではないかと、たくさんの方々のお話を聴かせていただいて学んだことです。

だとすると、「自殺予防の鍵」はここにあるのではないのでしょうか。生きていくのがしんどかった一つ一つの問題を、その道のプロに相談し、家族だけで何とかしようと思え込むのをやめて、多方面に「SOS」を出せる勇気が必要なのかなと思います。

北海道では、平成21年度から「自殺予防ゲートキーパー研修」という講座を行っています。個人の身体的な支援、心理的な反応に対する心の支援、社会制度相談窓口などの情報の支援、勤労・衣食住などの生活上の支援この4つの側面から研修・支援をしています。

今、問題になっている「孤独死」も「緩慢なる自死」と言われています。つまり、ゆっくりゆっくりと時間をかけて自分の命を絶つという行為です。

私は、毎年1回札幌市で行われている「自死遺族のためのフォーラム」に参加しています。全道からたくさんの方たちが集まります。参加するまでは、一家で2人の自殺者がいる家なんてうちだけだと思っていました。でもその実態は驚くほど多かったです。フォーラムでは、命について真剣に向き合い、あまり人には言えない「怒り」をぶつけることが出来ます。

また、帯広保健所では毎月1回「そよ風の会」という遺族会の集まりがあります。安心して泣くこと、悲しみとしっかり向き合うことの出来る場所です。もし、長女が生きていたら「そよ風の会」でお話しすることが出来たのかなと思います。

自死遺族は、笑うことが苦手です。美味しいものを食べたり、楽しいことをするのが罪だと感じます。何でもないことにビクビクおびえたりもします。きっと、自分で自分に烙印を押しているのだと思います。

「過去に起きたこと」その事実はもう誰にも変えることは出来ません。亡くなっていった夫や長女に二度と逢う事は出来ません。けれども、これからの生活や気持ちは少しずつであっても、やわらいでいくこと、その人らしい生き方をしてもいいこと、いいと思える時がいつか来ることを、信じています。また、私たち遺族が口を噤んでしまっただけで家族の生きた形跡は残りません。

大切な人の命がもうこれ以上失われることがないように、何も悪い事をしていないのに「ごめんね」と謝りながら亡くなっていく子供たちがいなくなるように、苦しい経験ですが、その経験を無駄にせず「心を痛めている方たち」にそっと寄り添っていくことができたらと考えています。微力ですが、あせらずに頑張っていきたいと思えます。

最後になりましたが、タブーの世界だった「自殺」・「自死遺族」という重い題材に着眼し、今日このようにお話しする機会を与えてくださった帯広ロータリークラブの皆様へ感謝したいとおもいます。どうもありがとうございました。

■会長報告



加藤 維利 会長

「ロータリーって何をするとどこですか」。「ロータリーってどういう目的を持った組織ですか」と聞かれたときに、皆さんは即座に答えられるでしょうか。これは「Object of Rotary」の日本語訳が「ロータリーの綱領」となっているために「ロータリーの綱領」を説明すればいいのだということに気がつかない方が多いのだと思います。

戦前の初代ガバナーの米山梅吉氏は「ロータリーの綱領」と「ロータリーの目的」の二つを使っていたが、2代目ガバナーの伊坂孝氏の在任中は「ロータリーの目的」で通しています。しかし戦後のRI復帰後の公式文獻はすべて「ロータリーの綱領」で統一され、「ロータリーの目的」という呼び方は姿を消しています。

1927年頃まで「ロータリーの綱領」は6項目からなっており「Object of Rotary」ではなく「Objects of Rotary」でした。「ロータリーの綱領」が4項目になったのは1935年のメキシコシティ大会からです。更に現在の「Object of Rotary」の単数形になったのは1951年のアトランティック・シティ大会からです。

綱領の中に書いてある「the ideal of service 奉仕の理想」も分かりにくい表現となっています。これは米山梅吉氏が日本語訳にしたときにidealを理想と訳したためと言われています。「ロータリーの源流」の田中毅さんは「Ideal of service」をシェルドンが唱えた職業奉仕理念と「超我の奉仕」の社会奉仕理念の2つが対になって、ロータリーの哲学であるロータリーの奉仕理念「Ideal of service」があると話しています。つまり「奉仕の理想」は「奉仕の理念」ということとなります。

「綱領」の和訳については以前から多くのロータリアンが意見を述べています。これを簡単に「目的」という単語に変えられない理由があります。綱領等翻訳問題調査研究小委員会という委員会と定款第4条問題検討委員会が意見交換をしながら、「綱領の正訳」について議論をしているようです。いずれ、正しい翻訳ができると思っています。

ところで、ロータリーの定款第15条にはロータリーの綱領の受諾と定款・細則の遵守(じゅんしゆ)が書いてあります。つまり綱領を受諾・遵守することが入会の条件となっています。あらためて綱領を読み返しロータリーの理念を理解しロータリー運動の質を高めていただくことをお願いしまして会長報告とさせていただきます。

■ゲスト紹介

伊藤 正子 様

■会務報告

和田 賢二 幹事

(1)帯広RC、第6回クラブ協議会開催のご案内
日時 6月13日(水)午後6時 場所 ホテル日航ノースランド帯広

(2)帯広RC主催、フォーラム開催のご案内

日時 6月23日(土)午後2時より 場所 十勝プラザレインボーホール

内容 アンチスティグマ〜偏見や差別のない社会へ〜

(3)帯広RC、年度末最終例会(夜間例会)開催のご案内
日時 6月27日(水)午後6時 場所 ホテル日航ノースランド帯広

二次会 ウィンザー(会費4,000円)

(4)帯広北RC、6月15日(金)の例会は、休会と致します。

(5)各ロータリークラブ年度末最終例会開催のご案内

・帯広南RC
日時 6月25日(月)午後6時30分 場所 北海道ホテル

・帯広東RC
日時 6月26日(火)午後6時30分 場所 帯広ワシントンホテル

・帯広西RC
日時 6月28日(木)午後6時30分 場所 北海道ホテル

・帯広北RC
日時 6月29日(金)午後6時30分 場所 ホテル日航ノースランド帯広

■委員会報告

・出席報告 石神 美代 出席副委員長

5/30 例会の報告 会員総数87名 内免除会員8名 出席者数 55名

5/16 例会の報告 メークアップを含む出席者数65名 出席率 81.3%

6/6 例会の報告 会員総数87名 内免除会員8名 出席者数 62名

5/23 例会の報告 メークアップを含む出席者数66名 出席率80.48%

・ニコニコ献金(5/30分) 谷山 仁基 親睦活動委員

加藤 維利 会長(2件)

いよいよ最後の定例理事会が終了しました。あとちょっとで次年度に引き継ぎです。今日はニコニコの対象になることはありませんでした。

田中 弘 会員
第一生命保険帯広支店長7人目です。加藤支店長をご紹介します。

松島 隆 会員
新入会員をご紹介します。

加藤 恭一 会員
新入会御礼。今後ともよろしくお願ひ致します。

太田 隆博 会員
十勝障がい者就業生活支援センターの片平様、山口様をお招きし、卓話をしていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

・ニコニコ献金(6/6分)

大江 徹 会員
本日の例会を担当します。

橋 精三 会員
本年度日本弁護士連合会総会において在職50年ということで表彰を受けました。長生きはしてみるものですね。

小林 善之 会員
6月1日付で代表取締役役に就任致しました。今まで以上に精進して地域に貢献できるようにがんばります。今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願ひ致します。

■お誕生祝い
太田 隆博 会員 蔦井 秀則 会員 和田 賢二 会員 若月 誠 会員



■配偶者様お誕生祝い
太田 隆博 会員 木野村英明 会員 小林 善之 会員

■ご結婚祝い
外崎 裕康 会員 木村 裕氏 会員 後藤 健二 会員
蔦井 秀則 会員 池田 雄一 会員 大和田三朗 会員

■6月のプログラム予定

6月13日(水)「出前講座報告会」
帯広市立第五中学校 校長 辻 敦郎様 教頭 山田 知史様(職業奉仕委員会)

6月20日(水)「街づくりとバス事業」会員卓話 野村 文吾 会員(プログラム委員会)

6月27日(水)「年度末最終例会」夜間例会 (親睦活動委員会)

ロータリー情報

職業奉仕 Vocational Service

ロータリーの第2奉仕部門。その目的には、事業および専門職務の道徳的水準を高め、あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理想を生かしていくことが含まれる。クラブの役割としては、クラブ会員の手腕を生かして、社会のニーズに応えられるようなプロジェクトを開発することが含まれる。クラブ会員の役割は、ロータリーの原則に沿って、自らと自分の職業を律し、併せてクラブが開発したプロジェクトに応えることである。(ロータリー用語語彙・手続要覧2004)



↑携帯サイトができました。バーコードリーダーで読み込む事ができます。

例会日/水曜日 12:30~13:30
例会会場/ホテル日航ノースランド帯広
TEL0155-24-1234

●創立/昭和10年3月15日 ●認証番号/3820

●戦後再開/昭和25年12月19日

事務局/帯広市西3条南9丁目 経済センタービル4F
TEL0155-25-7347 FAX0155-28-6033

●発行/クラブ広報

●委員長/安岡美樹夫

高原 淳・田守 由宗・北野 宏明

堀江 威光・辺見 京一・加藤 敏紀

●ホームページアドレス/http://www.obihiro-rc.jp